

太子高校の挑戦 その7

授業評価アンケート結果その後

本年度は、太子高校の「挑戦の年」と位置づけて「学力向上」「授業改善」に取り組んでいます。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校の挑戦について知っていただければと考えています。

先月、生徒と教師それぞれによる授業評価アンケートからの私見を述べましたが、データの訂正版が出ましたので、最新のデータに基づいて「その後」をご報告します。

- ① 「全般的に学校の授業がわかるか」という問いに対して、30%の生徒が「分かる」と回答していたというデータは、実は78%の生徒が「分かる」と回答していたということが判明しました。
- ② 「全般的に授業であなたの学習は充実しているか」という問いへの回答は、30%が「はい」であったという結果は、訂正版では76%でした。

データの訂正はこの2点です。①と②の結果と教師が「自分の授業は生徒に充実感を与えている」と感じている割合(77%)とは、ほぼ一致します。この現実はずばらしいものです。授業がしっかりと成立していることを示しています。

では、その内容を個別に見てみましょう。「授業で充実感を与えるためにどのような指導を行っているか」という問いに対して、「クラスやグループの中で考えさせる」が72%と、突出していました。一方、生徒では「先生が教科書の内容について説明したことがよく分かるとき」が55%とこちらも突出しています。アクティブ・ラーニングの手法が、太子高校の授業の中に徐々に浸透してきている現状がうかがえると同時に、生徒の方には教師の説明を聞き理解するといった従来の授業スタイルをよしとする意識が強いということも分かりました。

授業改善の取組の効果が今後どのように現れてくるか。「授業があまりわからない」と回答した約20%の生徒達を「分かる」に変化させるためにどうするかということもあわせて、2学期以降が楽しみです。

ONE SHOT



夏休み中のトイレの手洗い場です。トイレットペーパーや清掃用具がきちんと並べられています。三者面談や補習等で登校した人が、気持ちよく使用できます。

使う人の身になって掃除をすることは、後の人のことを考えて片付けておくとか、きれいに保っておくといった、お互いをいたわったり思いやりする気持ちを、無意識のうちに育むこととなります。

学校のあちこちで、こうした風景が見られます。太子高校の誇りです。

学校のカ・イ・ダ・ン

トイレには、美化委員の生徒が古新聞を折って作ってくれたゴミ入れが常備されています。保健部の先生方と、放課後の空き時間に作ってくれています。見えないところでも思いやりの心が育っています。